

拡大中東・北アフリカ構想（BMENA）
「未来のためのフォーラム」への参加について

平成 22 年 7 月 2 日

外務省中東第一課

1. 趣旨及び意義

- (1) 拡大中東・北アフリカ構想（BMENA）「未来のためのフォーラム」は、2004 年の G8 シーアイランド・サミットにおいて米国の提唱で開始された。中東諸国の政治、経済、社会の改革努力を支援するため、これまで 5 回にわたり閣僚級会合が行われてきたが、G8、BMENA 諸国、市民社会の代表等が一堂に会して、様々な問題を議論するユニークな場として、定着してきている。
- (2) 2009 年の第 6 回会合では、BMENA 諸国から多くの市民団体が参加し、政府と市民社会との対話や協力、改革における市民団体の役割の重要性が強調された。中東においても、市民社会との対話の流れは不可逆になってきており、着実に前進しているが、他方で、わが国を含め G8 の NGO、市民社会団体は限られているのが実状。
- (3) 我が国から市民社会団体等が参加することの意義
- ア 我が国の市民社会からの参加を得ることにより、欧米諸国の市民社会の視点のみならず、アジアの市民社会の声、意見も反映して BMENA 諸国の政治、経済、社会の改革努力を支援することが出来る。
- イ BMENA には、中東、欧米の市民社会が幅広く参加するので、我が国市民社会にとって、これら海外の市民社会との交流・関係を深めるとのメリットもある。
- ウ 中東各国の現状が把握でき、そこで活動する各国の NGO と情報交換することが可能。

2. BMENA の背景・経緯

(1) 概要

2004 年 6 月の G8 シーアイランド・サミットにおいて、議長国米国は、中東地域全域に民主主義を拡げるという目的で「中東民主化構想」を提案したが、イラク戦争後間もない時期でもあり、これに対しては、米国による民主主義の押しつけではないかとの反発が中東諸国から起こった。結局、G8

及び中東各国で種々議論の末、拡大中東・北アフリカ（Broader Middle East and North Africa：BMENA）諸国の政治的、経済的及び社会的分野における自発的な改革努力を G 8 が支援するものとして「BMENA 構想」に合意。その後、閣僚級会合である「未来のためのフォーラム（Forum for the Future）」が開催されるようになり、各国が連携して様々な取組を進めている。

（２）過去の「未来のためのフォーラム」

ア 2004 年 12 月 第 1 回未来フォーラム（於：モロッコ）

（ア）主な出席者：パウエル米務長官（共同議長）、アラブ各国、AMU 加盟国、EU、世銀など 44 の国、国際機関の代表

（イ）テーマ：「民主主義支援対話」、「識字イニシアチブ」、「起業家支援およびビジネス・トレーニング」、「投資タスクフォース」

（ウ）我が方出席者：逢沢外務副大臣、上田財務副大臣（ともに当時）

イ 2005 年 11 月 第 2 回未来フォーラム（於：バーレーン）

（ア）主な出席者：ストロー英外相（共同議長）、ライス米務長官など、34 カ国、13 の国際・地域機関、6 の NGO の代表

（イ）テーマ：「教育改革」、「非識字撲滅」、「職業訓練」、「起業家養成センター」、「女性のエンパワーメント」、「透明性と腐敗」、「人権」、「法の支配」

（ウ）我が方出席者：金田外務副大臣（当時）

ウ 2006 年 12 月 第 3 回未来フォーラム（於：ヨルダン）

（ア）主な出席者：ラブロフ露外相（共同議長）、ライス米務長官など、34 カ国、9 の国際機関等、9 の市民団体・NGO の代表

（イ）テーマ：「政治参加・選挙・メディア」、「統治と法の支配」、「女性と若者のエンパワーメント」、「市民社会」、「教育経済」

（ウ）我が方出席者：浅野外務副大臣（当時）

エ 2007 年 12 月 第 4 回未来フォーラム（独・イエメン共催で、イエメンに於いて開催する予定であったが中止となった。）

オ 2008 年 10 月 第 5 回未来フォーラム（於：UAE）

（ア）主な出席者：フラッティーニ伊外相（翌年の共同議長）、ネグロポンテ米務副長官など、35 カ国、10 の国際機関等、約 60 の市民団体・NGO の代表

（イ）テーマ：「表現の自由及び市民社会の法的環境を含む民主的改革の促進」、「女性のエンパワーメント」、「教育改革：若者と失業、職業訓練及び労働市場」、「政府と市民社会団体含む民間部門との協力（環境及び再生エネルギー食糧危機、人道支援及び開発支援）」、「フォーラムの回顧と評価」

（ウ）我が方出席者：中曽根外務大臣（ワーキングディナーのみ）、橋本外務副大臣（共同議長）【ともに当時】

カ 2009 年 11 月 第 6 回未来フォーラム（於：モロッコ）

（ア）主な出席者：クリントン米務長官、フラッティーニ伊外相（共同議

- 長) など, 42 カ国・地域・機関及び市民団体・NGO の代表
- (イ) テーマ: 「政治改革 (地方ガバナンスと民主主義)」, 「経済改革 (金融危機が BMENA 地域に与えた影響)」, 「社会改革 (人間開発と社会問題)」
- (ウ) 我が方出席者: 武正外務副大臣

3. 今年度の予定

《ワークショップ》

1 第 1 回ワークショップ「紛争の平和的解決と民主的移行」(実施済)

(Peaceful Conflict Resolution and Democratic Transition)

- (1) 日時: 5 月 29 日 (土) - 30 日 (日)
- (2) 場所: ドーハ (カタール)
- (3) 主催者: アラブ・デモクラシー財団, カタール人権委員会共催
- (4) G8 市民社会団体からの参加: カナダ市民社会団体「国際開発研究センター」, イタリア市民社会団体「No Peace Without Justice」の 2 団体。
- (5) 概要:

市民社会団体を中心となって, 紛争解決に際する市民社会団体の役割の重要性, 政府との橋渡しをする BMENA の意義について, スピーチ及び活発な議論が行われたところ、国内紛争の解決に際しては, 政府及びアラブ連盟その他の地域機関に加え, 市民社会団体を参画させる必要性が確認された。

2 第 2 回ワークショップ「青年層による企業と市民活動」

(Youth Entrepreneurship and Civic Activism)

- (1) 日時: 9 月予定。
- (2) 場所: バイルート (レバノン) 予定。
- (3) 詳細は未定。

3 第 3 回ワークショップ「企業の社会的責任」

(Corporate Social Responsibility)

- (1) 日時: 10 月予定。
- (2) 場所: イスタンブール (トルコ) 予定。
- (3) 詳細は未定。

《高級事務レベル会合》

4 高級事務レベル会合

- (1) 日時: 未定 (第 3 回ワークショップ終了後)。

(2) 場所：オタワ(カナダ)予定。

(3) 詳細は未定。

《閣僚級会合》

5 閣僚級会合

(1) 日時：12月1日(水)－2日(木)

(2) 場所：ドーハ(カタール)

(3) 詳細は未定。

4. 経費

参加にあたっては、基本的に経費自己負担。

(了)